

スプリング8

住友ゴムなどと16社と関学

産学で新素材開発

播磨科学公園都市(佐用町など)の大型放射光施設、スプリング8で、住友ゴム工業(神戸市中央区)など十六社と関西学院大学が、新素材を開発するための産学共同研究の専用ビームライン(実験・研究スペースに放射光を取り出す施設)を建設する。連合組織を発足させ、二〇〇九年夏の稼働を目指している。

(内田尚典)

新施設 電子材料など分析 来夏稼働

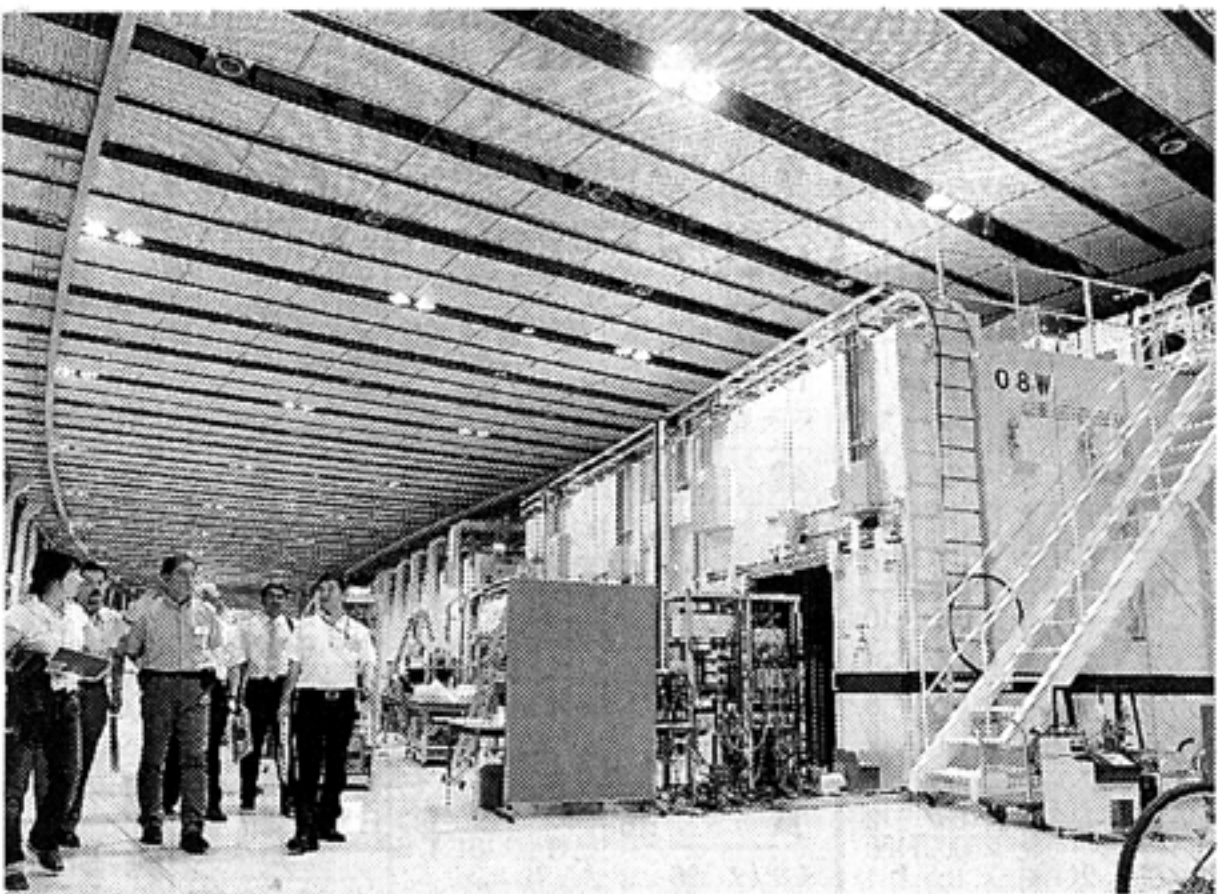
参加企業は住友ゴムのクラレなど。各企業はさほか、旭化成やキヤノン、さまざまな大学の研究者ら

と研究グループをつくり、ビームラインを利用する。関西学院大学は放射光を使った研究・開発を通じ、産業界で活躍できる研究者・技術者の育成を目指す。

スプリング8のビームライン(計画中のものも含めて五十三本)が産学連携で建設、利用されるのは初めて。ゴム、プラスチック、有機エレクトロルミネッセンス(EL)をはじめとする先端電子

機器、医療用品などに使われる高分子材料の、構造や外部環境による変化を解明する。

連合組織の代表に岡田明彦・住友化学筑波研究所グループリーダー、運営委員長には桜井和朗・北九州市立大学教授が就任。岡田代表は「高分子産業の国際競争力の強化へ放射光の活用が欠かせず、専用施設が求められていた」としている。



産学が連携したビームラインが設置されるスプリング8。佐用町などにまたがる播磨科学公園都市

H20.2.21

神戸新聞

(地域経済・11面)